

講義名	生活構造論		
科目区分	学部専門科目		
担当教員	森脇 丈子		
開講期・曜日・時限	前期 月曜日 4時限	授業形態	
	2014年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 福祉マネジメントコース / 2014年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 サービス心理コース / 2014年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 スポーツ健康マネジメント / 2014年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 サービスマーケティング / 2014年度 サービス産業学部		
履修開始年次	3年生	単位数	2
		備考	

主題と概要			
<p>この講義では、私たちの日常生活が経済や社会構造などどのようななかかわりをもっているかについて、具体例ならびに理論をとりあげ、学びます。社会の基礎的な仕組みを知り、私たちの生活に影響を与える経済的要因にはどのようなものがあるのか、経済的事象はいかに引き起こされてくるのか、社会と個人や家族はどのようななかかわりを持っているのか、生活環境や雇用条件はどのようにつくりだされ、変化してきているのかについて学んでいきます。また、壊れず、壊されずに生きているにはどういった力が必要かについて、いっしょに考えていきます。</p> <p>新聞記事・DVDなどを適宜用いながら講義をおこないます。</p> <p>毎回の講義の中で受講生との議論をおこないます。</p>			

到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 私たちの生活と経済活動との結びつきについて理解します。 2. 家族構成や就業構造や生活時間の変化について、また、それらの変化が現代社会にどういった影響をもたらしているかについて理解します。 3. 働くこととのかかわりで、経済の仕組みや法のあり方や知っておくべき知識について学びます。 4. 働き方や雇用条件と生活との関係について学び、よりよい暮らしのために自分の意見を持てるようになります。 			

提出課題			
<p>授業の後半に課題を出します。課題は、その日の授業内容に関連するものです。授業の内容のまとめや自分の考えを記入して提出してもらいます。</p> <p>授業中に質問を多く出します。自分の考えをまとめて発言してください。</p>			

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック			
<p>「提出課題」に関するコメントをします(授業内で)。</p>			

評価の基準			
<p>「小テスト」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・回数...2回 ・点数...2回×35点=70点 <p>「課題」の提出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・回数...毎回 ・点数...15回分×2点=30点 <p>「小テスト」と「課題」の合計点で、評価をします。合計60点以上が、合格です。</p>			

履修にあたっての注意・助言他			
<p>授業中に学生に質問を出し、発言を求めます。</p> <p>新聞・ニュース・雑誌等で社会の出来事や企業活動などに関する情報を日々収集しておいてください。</p> <p>第1回目の授業ガイダンスに必ず出席し、授業中の約束事をしっかりと理解したうえで、受講してください。</p> <p>教室での通常授業では、授業中の私語、スマホの利用、教室への勝手な出入りを禁止します。</p> <p>関連科目として、「経済学入門」「消費文化論」「消費者問題論」「NPO論」の受講を勧めます。</p>			

教科書	
<p>・「使用しない」。</p>	

プリント資料及び参考文献	
<p>教室で行う通常の授業では、出席者に、プリント、新聞記事を適宜配布します。</p> <p>遠隔授業では、Ayuka Portalの「講義連絡」の機能を使って、プリントを提供します。</p> <p>参考文献</p> <p>・松沢裕作(2018)『生きづらい明治社会 不安と競争の時代』、岩波ジュニア新書</p> <p>・白川桃子・常見陽平(2012)『女子と就活-20代からの「就・妊・婚」講座』、中公新書ラクレ。</p>	

授業計画	
1	授業の内容紹介と授業の進め方について、経済と生活との結びつきについて考える
2	就業構造の変化1：戦後の日本経済 高度経済成長期まで
3	就業構造の変化2：戦後の日本経済 低成長期以降
4	就業構造の変化3：日本社会の発展と世帯構成の変化
5	就業構造の変化4：女性の職場進出、「専業主婦」の誕生
6	平成不況のもとでの雇用と生活1：1997年以降の経済状況
7	平成不況のもとでの雇用と生活2：雇用環境の変化とその諸要因
8	平成不況のもとでの雇用と生活3：若年層をめぐる状況
9	格差社会の諸様相
10	生活時間・生活費分析からみた生活構造
11	若者と雇用環境の変化(1)
12	若者と雇用環境の変化(2)
13	少子高齢化社会のもとでの生活：少子化、子育てストレス
14	収入と支出のバランス
15	まとめ

授業形態（アクティブ・ラーニング）	
ア	PBL（課題解決型学習）
イ	反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ	ディスカッション、ディベート
エ	グループワーク
オ	プレゼンテーション
カ	実習、フィールドワーク

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間	
<p>・毎回の講義終了時に、次回の範囲とそれに関連する予習項目を提示します。新聞やニュースなどを使って情報収集に努め、次週の授業での質問により多く答えられるよう準備してください（作業時間：2時間程度）</p> <p>・その日の授業で扱った内容を基にして、次週の授業開始時に復習問題を提示します。授業で使用したプリントを用いて、基礎的な内容の復習をしてください。また、配布した新聞記事などを利用して、具体的な事例で授業内容をより深く理解できるように努めてください（作業時間：2時間程度）</p>	

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述	
<p>インターネットを使った遠隔授業方式での発言、もしくは、チャット機能を使って意見を述べてもらいます。</p>	

実務経験の有無及び活用	
備考	
<p>第1回目の授業ガイダンスをしっかりと聞いて、授業の進め方・評価方法を理解してください。</p> <p>通常の教室での授業では、基本的にスマホは利用しません。教員の指示があったときのみ、スマホを使用してください。教室への勝手な出入りは禁止します。授業態度の悪い人には退室を求めることがあります。</p>	